

令和7年度 新規研究課題の概要

No.		期待される成果
01	【環境部・生物資源研究センター】 新規発生ウイルス（CABYV）の発生生態の解明と防除技術の確立	海外でウリ科作物に甚大な被害を与えているCABYVが京都府において国内初確認されたため、府内分布状況をモニタリングするとともに、 CABYVの生理・生態を明らかに することで、防除対策を構築し、 本ウイルスの分布拡大 の抑止する（対策マニュアル活用）。
02	【茶業研究所・企画連携室】 未利用資源でん茶の茎による新たな商品の開発	現在、有効利用されていないでん茶の茎には、葉と同等以上のテアニン等機能性成分が含まれている。そこで、でん茶の茎をペースト状に加工し、それを活用した新商品を開発する。 でん茶の茎の新たな需要を創出 することで、 生産者の所得向上 を図る。
03	【生物資源研究センター】 中食需要に対応した生産性の高い金時系高リコピンニンジン新品種の育成	機能性成分「リコピン」の含量が多く、太短く加工適性に優れる形状かつ、多収が見込める ニンジン新品種 の開発を目指す。これまでの研究で、リコピン含量に影響を与える遺伝子領域を1つ特定しているため、さらに関連遺伝子を集積させて効率的な選抜を行うことで早期に品種を開発する。
04	【畜産センター】 地域の特徴を活かした簡便なNH3回収技術による鶏糞堆肥化における臭気軽減手法の検討	府内では排出される鶏糞の約85%が密閉縦型堆肥化装置(以下、縦型コンポ)で処理されているが、縦型コンポは処理が難しい高濃度NH3を間欠的に排出するため、一部で臭気問題が生じている。そこで、 安価にNH3ガスを7割超回収する技術 を確立し、 発生臭気を軽減 する。
05	【畜産センター】 鰹節搾りかすの鶏用飼料としての活用	近年輸入飼料原料が高騰しているため、魚粉の代替として未利用資源である 鰹節搾りかすの利用により飼料コストを削減 する。また、 未利用資源のデータベース化 を行い、利用を推進し、京都府内の未利用資源活用による 環境負担軽減と循環型農林水産業の実現 をする。